

# シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
保健体育	保 健	1	2	全	1～12組

教科書	新高等保健体育（大修館書店）	副教材	

科目の目標	健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。また、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う上で中心的な役割を担っていることを理解できるようにする。
-------	---

科目の概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を学ぶ。
-------	--

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうする態度を養う。
評 価 の 方 法	・定期試験 ・小テスト	・定期試験 ・小テスト	・平常点（授業態度） ・提出物
定期試験（3回）、ノート点、出欠状況、学習に取り組む姿勢や態度等を総合的に判断して評価する。			

学 習 計 画

学期	学習内容(単元)	単元別学習目標
1 学 期	第2章 安全な社会生活 4.応急手当の意義と救急医療体制 5.心肺蘇生法 6.日常的な応急手当  第3章 生涯を通じる健康 1.思春期と健康  【1学期 中間試験】 実施しない	・適切な応急手当は、生涯や疾病の悪化を軽減でき、正しい手順や方法があることを理解する。 ・心肺蘇生等の応急手当は速やかに行う必要があることを理解する。 ・日常生活で起こるけがや熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする。 ・思春期における体の変化や、心の発達にかかわる健康課題について理解する。
	第3章 生涯を通じる健康 2.性意識の変化と性行動の選択 3.結婚生活と健康 4.妊娠・出産と健康 5.家族計画  【1学期 期末試験】 7月1日～7日	・性意識の男女差や、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。 ・心身の発達と結婚生活の関係について理解し、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を理解する。 ・妊娠・出産の過程や妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解し、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。
2 学 期	第3章 生涯を通じる健康 6.加齢と健康 7.高齢社会に対応した取り組み 8.働くことと健康 9.労働災害の防止 10.働く人の健康づくり  【2学期 中間試験】 実施しない	・加齢による心身の変化や、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて理解する。 ・高齢者を支える社会の取り組みについて理解する。 ・働く人の健康問題の変化や労働災害を防止する様々な取り組みについて理解する。 ・職場がおこなう健康増進対策や余暇の大切さや活用の仕方について理解する。
	第4章 健康を支える環境づくり 1.大気汚染と健康 2.水質汚濁・土壌汚染と健康 3.健康被害を防ぐための環境対策 4.環境衛生に関わる活動  【2学期 期末試験】 12月1日～5日	・大気汚染の原因とその健康影響や地球規模の環境問題について理解する。 ・水質汚濁と土壌汚染の原因とその健康影響について理解する。 ・環境汚染を防ぐための対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や、新たな環境汚染の課題について理解する。 ・ごみの処理の現状や課題、安全で質のよい水を確保するためのしくみと課題を理解する。
3 学 期	第4章 健康を支える環境づくり 5.食品の安全性と健康 6.食品の安全性を確保する取り組み 7.保健制度とその活用 8.医療制度とその活用 9.医薬品の制度とその活用 10.様々な保健活動や対策 11.誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり  【3学期 学年末試験】 3月4日～9日	・行政や生産・製造者による食品の安全の為の対策や消費者がおこなうべきことを理解する。 ・保健行政の役割や保健サービスの活用について理解する。 ・さまざまな医療機関の役割や医療サービスを受けるときの留意点について理解する。 ・医薬品の正しい使用法や承認制度について理解する。 ・民間機関・国際機関などの保健活動や対策について理解する。 ・健康を支える環境づくりについて理解する。